

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2010年9月中旬から10月下旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月中旬～下旬は、低位水準であるが、来遊量は徐々に増加する。10月上旬～中旬は中位水準となる。10月中旬から減少を始め、10月下旬は低位水準となる。
- (2) 漁場: 9月中旬～下旬の主漁場は、引き続き沖合であるが、落石～厚岸沖にも断続的に漁場が形成される。10月上旬は、釧路沖まで漁場が広がり、襟裳岬沖にも断続的に漁場が形成される。10月下旬は、落石沖の漁場が消滅し、厚岸～襟裳岬沖が漁場となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は断続的ではあるが来遊があり、来遊量はゆるやかに増加する。10月中旬～下旬は低位水準である。
- (2) 漁場: 10月上旬には、断続的に漁場が形成される可能性がある。10月中旬は三陸北部に漁場が形成され、10月下旬は北部～南部にかけての広範囲に漁場が形成される。

※常磐海域の予報については、9月29日発表から行います。

2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少
	漁 場	落石～厚岸沖	落石～厚岸沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向			断続的	低位増加	低位増加
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年をかなり下回り、低位水準であった。過去20年間で最も来遊量が少なかった。日別CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、26～27日頃、一時的に来遊量が増加したが、その後減少した。

(2) 漁場

花咲港東沖が主漁場であり、道東海域では落石～霧多布沖が漁場となった。

落石南東～霧多布南東沖の20～30海里付近(表面水温14～19℃)では、22日夜、25～27日夜に大型船が数隻と小型船が多数操業。落石南東～南沖で操業する船が多く、27日夜のみ霧多布南東沖まで漁場が広がった。漁獲量は最高10トン程度。漁獲皆無の船も多かった。

(3) 魚体

31cmモードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.5～2割程度。体重150g台が主体。

※サンマ中短期予報の作成方法について

サンマ中短期予報は、数量化I類を使用した予測モデルの結果を利用しています。この予測モデルは、「予測を行う直前のサンマの来遊状況(今回の場合、8月下旬の海区別資源量指数)」と「予測海域の予測対象旬における表面水温の占有率(予測水温分布図から計算)」をパラメータとして使用しています。予測水温分布図は、漁業情報サービスセンターが作成した海況図を用い、統計モデルを使用して予測した結果です。